

新ジャンル「小特集」について

この度、総会でご報告させていただいたように、新ジャンル「小特集」が発足することとなりました。共通のテーマをめぐり複数の著者がそれぞれの専門領域の立場から執筆するものです。それにより、従来の「論点をめぐって」よりも特定のテーマについてさらに多角的な検討が可能となると想像されます。また、より広い研究史の流れに関連づけて新たな研究視角を提起することも可能となり、学会内外における議論や研究の進展を促すという「論点をめぐって」の狙いを一層推し進めうると考えております。一方、「大会特集・共通論題」に対して言えば、より小さなまとまりであるので、限定したテーマを深く掘り下げることができるし、機動的にテーマを選べ、実験的な試みも容易となると期待しております。

なお、このジャンルでの投稿は、大会でのパネルでの報告を前提といたします。また、少なくとも投稿時には執筆者全員が会員となっていただきます。ご投稿は、パネルのオーガナイザーが一括して行ってください。以後、審査過程での執筆者と編集委員会とのやりとりは、オーガナイザーを通じて行われることとなります。分量は、400字詰め原稿用紙150枚以内とさせていただきます。詳細については、新たな投稿規定をご覧ください。表記・注・引用文献などについては、これまでの執筆要領にしたがっていただければと存じます。上記のような趣旨でありますので、審査においては、個別論文の評価のみでなく、「小特集」全体での研究史上の意義や論理一貫性なども重視いたします。

新しい試みでありますので、なかなかイメージが浮かばないかもしれません。ご不明な点があれば、遠慮なく編集委員会にお問い合わせください。ふるってご投稿いただければ幸いです。

2016年10月

『歴史と経済』編集委員会